

## 令和7年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

設定した課題に対して教職員全体で共通理解を図り、生徒の実態に応じた柔軟かつ効果的な取り組みにより、重点目標はほぼ達成できた。多様な生徒への対応についても教職員全体で情報共有し、SC・SSWや通級指導担当教員、外部の関係機関とも連携しながら、学校生活の様々な場面で支援することができた。

学習活動では、すべての生徒にわかりやすく、質問しやすい授業づくりを目指して授業改善を図った。生徒アンケートでは「考えや疑問を伝える努力をした」が70%、「実際にできた」が7月51%から12月55%に増え、生徒の学ぶ意欲に成果が見られた。互見授業では積極的に授業を参観し合い、有効な事例を共有して各自の授業改善に活かすことができた。教員アンケートでは「生徒が質問や意見を言いやすい取り組みができた」と回答した割合が96%となった。

学校生活では、スマホ等の適切利用推進運動を展開し、各自の目標設定・自己評価により、目標達成度89%と行動に改善が見られた。また、様々な場面で命の大切さや交通安全の啓発にも努めた。さらに、生徒の実態に応じた健康講座を数多く実施した。アンケートでは「自己理解が深まった」が91%、「相談の必要性や仕方を知った」が89%で、心身の健康状態について関心を高める良い機会となった。

進路支援では、JSTと学年が連携し、きめ細かな指導を継続した。要支援生徒には外部機関とも連携し、進路目標を実現した。進路ガイダンスに加え、先輩講話や学校・企業見学、インターンシップなどを計画的に実施し、生徒は1年次74%、2年次100%と進路目標を明確にできた。

特別活動では、生徒会が主体となり、前年度アンケートを参考に行事を企画・運営することで、積極的参加による達成感は93%と高かった。図書館の有効活用として様々な企画を工夫し、一人あたりの利用数は5.8回であった。今後は読書促進へのさらなる仕掛けが課題である。

総合福祉科では、家庭・福祉分野の各種講座や交流・体験活動など、目的意識を明確にした実践的な学習を積極的に行った。アンケートでは「福祉への興味関心が深まった」が100%、「生活をよりよくする知識・技術が身についた」が80%で、専門科目への学習意欲向上に成果が見られた。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) ペアやグループでの意見交換、タブレットの共有機能の活用、教員に1対1で質問できるよう配慮など、生徒のニーズを踏まえ、さらに発言しやすい環境を整え、学力定着につなげていく。
- (2) 安全意識の高揚やスマホ等の適正利用の推進など粘り強い指導を継続する。生徒の抱える問題については情報共有を密に行い、卒業までの長期的な視点をもって資質や能力を育てる。
- (3) 進学希望者の学力向上を図る指導体制を充実させる。就職希望者への支援は早期からJSTと連携して学校全体で行い、要支援生徒の対応には関係機関や外部機関との連携を一層充実させる。
- (4) 生徒主体で企画・運営の見直しを行い、集団活動が苦手な生徒には年次と連携して積極的な参加を促す。図書館は生徒の居場所として役割を担いながら、読書の促進を図る。
- (5) 学んだ知識や経験を次に活かす系統的な指導計画を作成し、様々な専門講義や交流・体験活動を継続していく。自己・他己評価を通して生徒自身が成長を実感できる学習機会を設定する。

## 8 学校アクションプラン

令和7年度 となみ野高等学校アクションプラン -1-			
重点項目	学習活動		
重点課題	① 学習内容の理解・定着と学習意欲の向上	② 授業改善の推進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容について理解・定着の乏しい生徒が見られる。</li> <li>学習・授業に対する意欲の乏しい生徒が見られる。</li> </ul>		
達成目標	① 学習・授業アンケートで「学習・授業において、自分の考えや疑問を伝える努力をした」と回答した生徒の割合 <b>85%以上</b>	② 互見授業アンケートで「生徒が授業で意見や質問を言いやすくなる工夫をし、授業改善に取り組んだ」と回答した教員の割合 <b>90%以上</b>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における生徒とのコミュニケーションを深め、意見や質問を言いやすい授業づくりを目指す。</li> <li>適切な目標や課題等の設定により生徒の学習意欲を高め、着実な取り組みにつなげることで学習内容の定着を図る。</li> <li>タブレットの効果的な活用等、授業改善に取り組み、授業のユニバーサルデザイン化のさらなる推進を目指す。</li> <li>互見授業等を通して教員相互の意見交換を密にし、授業改善を図る。</li> <li>生徒によっては、通信制講座の活用など、多様な学習機会を確保できるようにする。</li> </ul>		
達成度	① <b>70%</b>	② <b>96%</b>	
具体的な取組状況	<p>&lt;授業改善の取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業のユニバーサルデザイン化とコミュニケーションを大切にした授業の工夫に努め、すべての生徒にわかりやすく、質問や意見を伝えやすい授業づくりを目指した（となみ野ユニバーサルデザイン〔TNUD〕）。</li> <li>今年度入学生から学習用タブレットが各自購入となったことやGoogle機能の更新などに対応するため、ICT活用についての研修を実施し、教員のスキル向上を図った。</li> <li>互見授業期間中、積極的に授業を参観し合い、各自の授業改善に活かした。</li> <li>生徒がアンケートで質問しやすいと回答した取り組みを共有し、授業改善に活かした。</li> </ul> <p>&lt;生徒への働きかけと効果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習・授業アンケートで「プラスに感じたこと」について記載する欄を設け、自身の頑張りや努力、学習成果をふりかえる機会とした。</li> <li>「学習・授業において、自分の考えや疑問を伝えることができたか」というアンケートに「できた・まあまあできた」と回答し、達成感を得た生徒が55%に増えた（7月比：4%増）。</li> <li>日々の授業で自分の考えや疑問を伝える努力を重ねることで、生徒が自立に必要なコミュニケーションの力を伸ばし、自身の学びを深めることを支援した。</li> </ul>		
評 価	<b>B</b>	ほぼ目標を達成した	<b>A</b> 目標を達成した
学校評議員の意見	互見授業を通じた授業改善やTNUD（となみ野ユニバーサルデザイン）を通じた授業づくりなど、様々な取り組みがなされており評価する。生徒が「質問・意見ができた」と回答する割合と「伝える努力をした」と回答する割合が同程度となるよう、今後も継続して取り組んでいってほしい。		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が授業改善に取り組む中で、TNUDによるわかりやすさや質問や意見の伝えやすさの追求に加え、その延長線上に生徒の学力の定着と自立した学びがあるよう工夫する姿勢が多く見られた。今後もこの発展的な取り組みの持続・推進に努めたい。</li> <li>ペアやグループで意見を交わす、タブレットの共有機能を活用する、生徒が教員に1対1で質問できるように配慮するなどの生徒のニーズをふまえ、生徒が質問や意見を気軽に伝えられるような環境をさらに整えていきたい。</li> <li>多様な生徒の増加に伴い、個に応じてよりきめ細かく学習の支援を行えるようにしたい。</li> </ul>		

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:達成できなかった）

重点項目	学校生活	
重点課題	① 安全意識の高揚、適切な「スマホ」利用に対する意識高揚	② 心身に対する自己理解を深め、不調を解消しようとする相談等ができる
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時や休み時間にスマホを操作しながら移動する「ながらスマホ」の生徒が多く見られる。事故の被害者にも加害者にもなり得る状況である。生徒自身が「ながらスマホ」の危険性を十分に理解し、安全意識を高める必要がある。また、授業時間以外に「スマホ」が手放せない生徒が多くいる。「スマホ」の長時間利用による健康被害も周知しながら、校内での友人とのコミュニケーションの時間を大切にできるように意識させたい。</li> <li>心身の不調を感じていても、その要因となっている行動や事柄について分からない、分かっても改善・解消するための行動や相談にうつせない生徒がいる。体調不良の訴え、欠席や遅刻、早退、授業を休むことで困難を回避している面もある。心身に対して自己理解を深め、不調を解消しようという意識をもち、自ら行動しようしたり、相談したりして、心身ともに健康な生活を送れるようにする必要がある。</li> </ul>	
達成目標	① スマホ等適切利用に関するアンケートで、各自の設定目標に対する自己評価において、一日ごとの目標を達成した割合 <b>昨年度の達成率82.7%以上</b>	② 「心と体の健康講座」を実施し、事後アンケートにおいて、「心身に対する自己理解を深めることができた」「相談の必要性や相談の仕方を知ることができた」と回答した割合 <b>いずれも75%以上</b>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校生徒対象に交通安全教室を実施し、「ながらスマホ」の危険性について理解を深めるとともに、命の大切さと交通ルール遵守への意識を高める。</li> <li>自転車通学者に対しての車体検査で、ヘルメット着用の呼びかけを個別に行う。</li> <li>事故を未然に防ぐため、日々の場面毎の声かけ、全校集会や年次集会等の様々な機会を通して普段の行動を振り返る場面を設け、安全意識の定着を図る。</li> <li>スマホに関する各自の目標を設定し、定期的なアンケート調査により生徒の実態を把握し、適切な利用意識の高揚を図る。</li> <li>日々の場面毎の声かけ、ポスター掲示や動画、外部講師講座等を活用し、スマホの使用マナーや「デジタルデトックスの意義」について考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年次の生徒状況に応じて「心と体の健康講座」を実施することで、心身に対する自己理解を深める。</li> <li>外部の専門家による講座を行い、生徒が自己理解を深め、不調の改善方法や困ったことがあった際の相談の仕方等について詳しく知ることができるようになる。</li> <li>入学早期に「新入生カウンセラー面談」を全員に行い、生徒が相談室を利用しやすい環境を作る。</li> <li>教育相談に関する研修を行い、教員の教育相談への理解を深め、生徒への支援につなげる。</li> </ul>
達成度	① <b>89%(できた59%、ほぼできた30%)</b>	② <b>順に 91.4% , 88.8%</b>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室で被害者だけでなく、損害賠償を伴う加害者にもなることや自転車の「スマホながら運転」罰則強化等の話を聞いた。</li> <li>スマホに関するアンケート結果を分析し、考察を記載したプリントをクラス掲示した。また、担任や生徒指導部長が結果や注意すべき事について話をした。さらに、結果を受け自己目標設定に対して自己評価を行う「スマホ等適切チャレンジ！」を実施した。</li> <li>長期休業前の生徒集会やプリントで、「スマホ等の適切な利用」「安心安全な学校生活に大切なこと」等の話をした。また、廊下等での「ながらスマホ」利用者への個別の声かけを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解、周囲との関わり等の生徒の実態を把握し、講師のSCとねらい・内容・活動等を検討して講座を実施した。人間関係づくり・自己理解・他者受容・コミュニケーション・メンタルコントロール等の内容で行った。</li> <li>外部の専門家によるSOSの出し方講座で、ストレスを上手に解消する方法の1つとしての「相談」の重要性や効果、相談方法について説明を聞き、一人で悩まず相談してみようという感想をもつ生徒が多かった。</li> <li>講座実施後に、感想を記入したり、講座についてまとめた掲示物を作成したりして、活動をふり返り理解を深めた。</li> <li>教員対象に教育相談に関する研修を実施し、授業での生徒支援や理解、相談時の心構えについて理解を深めた。</li> </ul>
評 価	<b>A</b> 目標を達成した	<b>A</b> 目標を達成した
学校評議員の意見	スマホ等の利用について、普段自分ができていないと思う課題を振り返り、自分でチャレンジするコースを設定して自己評価する取り組みを実施したことが功を奏していた。	「心と体の健康講座」や生徒への支援につながる教員研修などの取り組みは評価できる。生徒が自己理解を深め、不調を解決しようと相談できる体制づくりは大変重要である。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自転車運転時のヘルメット着用者を増やすための取り組みや工夫。</li> <li>「スマホ等適切利用チャレンジ！」における各自の目標設定が前進できるようにするための取り組みや工夫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態把握や課題設定のために、生徒の抱える困難や変化について情報共有を密に行い、必要な講座内容や支援を十分に検討する必要がある。</li> <li>卒業までの長期的な視点をもって資質や能力を育てられるように、内容と日常生活に反映できる方策を検討していく。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

重点項目	<b>進路支援</b>		
重点課題	<b>適切な進路目標を設定し、進路実現に必要な能力の育成を図る</b>		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持っていない生徒が見られる。</li> <li>進路実現に必要な基礎学力および社会性が不足している生徒が見られる。</li> <li>進路目標が多様であり、特別な支援を必要とする生徒も見られる。</li> </ul>		
達成目標	① <b>卒業予定者の進路目標達成率 100%</b>	② <b>1月の進路希望調査で、進学・就職を明確にできる生徒の割合 1年次80%以上 2年次90%以上</b>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路特別講座（進路ガイダンス、社会人講話、学校・企業見学会、先輩講話）およびインターンシップを事前・事後指導を併せてきめ細かく行う。また、進路ノートの活用を各年次に周知徹底し、段階的に情報を蓄積することにより、目標とする進路を明確にする。</li> <li>卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、コミュニケーション能力および自己表現力を身に付けるよう指導する。</li> <li>基礎学力コンテストやキャリアアッププロジェクトの実施を通じて、進路実現に必要な学力の育成を図る。さらに、進路決定者においても進学・就業意欲を継続させ、進路先への円滑な移行を目指す取り組みを行う。</li> <li>特別な支援が必要な生徒には、年次をはじめ通級指導担当教員や保健厚生部と連携し、生徒の適性に十分配慮した指導・支援を行う。</li> </ul>		
達成度	① <b>93%</b> 【進学13名】(1名結果待ち) 【就職12名】(1名アルバイト継続)	② <b>【1年次】 74%</b> <b>【2年次】 100%</b>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路ガイダンス、社会人講話、学校・企業見学会、先輩講話等を通して、生徒は進路先への具体的なイメージを持ったり、意欲を高めたりすることができた。</li> <li>特に企業見学会では、今年度南砺市と連携することで、規模をより拡大（昨年度までは1コース2社、今年度は4コース8社）して実施することができた。</li> <li>3年次の進学希望者には、面接や小論文、個別試験対策などの学習支援体制を整備するとともに、就職希望者には、担任やJSTとの面談や事前指導に加え、各家庭でも十分な話し合いができるよう新規に求人票閲覧システムを導入した。</li> <li>インターンシップでは、生徒の希望に基づき、担任やJSTと面談を実施して生徒の適性等も考慮した上で実習先を選定するなど、生徒にとってより充実した体験となるよう配慮した。</li> <li>特別な支援が必要な生徒には、校内支援だけでなく、外部機関との連携も図っている。</li> </ul>		
評 価	<b>B</b>	<b>目標をほぼ達成した</b>	<b>B</b> <b>目標をほぼ達成した</b>
学校評議員の意見	進路に対する具体的なイメージを持たせ、意欲を高める様々な取り組みとともに生徒一人ひとりの希望や適性を考慮しながらの支援が高い目標達成率につながっている。また、特別な支援を必要とする進路支援の難しさ、外部との連携、各家庭との十分な意思疎通に苦勞されていると感じるが、今後も継続した取り組みや連携を行ってほしい。		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学希望者の学力向上が図れるようキャリアアッププロジェクトを見直し、教科・年次横断的な指導体制の充実が求められる。</li> <li>就職希望者への支援は、早い時期から年次職員を中心としながら、JSTや校務運営委員とも連携し学校全体の指導体制で行う必要がある。また内定後についても、就業への意欲を継続できるような支援が必要である。</li> <li>今年度導入した求人票閲覧システムを十分に活用できるように、早い段階から事前説明を行った後、実際の操作にも熟達させる必要がある。</li> <li>特別な支援を必要とする生徒の支援体制を一層充実させることが求められる。</li> </ul>		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

重点項目	特別活動	
重点課題	① 学校行事への積極的な参加と達成感	② 図書館の有効な活用
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人とのコミュニケーションや集団活動そのものに苦手意識を持ち、学校行事への参加に消極的であったり、参加できなかつたりする生徒が見られる。また、生徒一人一人への配慮がより必要となっている。</li> <li>・ 生活環境の変化や動画等のメディアの発達や普及等を背景に「活字離れ」が進んでいる。本や新聞、インターネット等の活字に親しむための支援が必要である。</li> </ul>	
達成目標	① 主要学校行事の事後アンケートで、「積極的参加」「達成感」等の4件法評価を実施し、「よい」と回答した割合 90%以上	② 1年間の図書館等利用生徒数 延べ 350人以上 (生徒一人あたり約2.5回の利用を目標)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校訓「発見、挑戦、創造」に基づき、学校行事への積極的な参加を促す。</li> <li>・ 生徒会が主体となり、生徒の意見が反映される行事の企画・運営を行う。</li> <li>・ 生徒自身の学校行事における役割の自覚を促し、一人一人が達成感を持てるような配慮や働きかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が図書館で時間を過ごしたり、足を運びやすいような仕掛けや工夫を行う。</li> <li>・ 生徒の多様なニーズに応じた図書を準備したり、生徒が直に図書に触れたりしやすくする工夫を行う。</li> <li>・ 図書の展示方法を工夫したり教養講座を行ったりして図書への興味関心を高める。</li> </ul>
達成度	① 93%(チャレンジデーⅠ～Ⅲ、となみキャンパスフェスティバルの平均値)	② 図書館および新聞閲覧コーナーの利用者数 延べ 936人以上(生徒一人あたり5.8回)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度アンケート結果を参考に生徒会執行部が主体となり、企画・準備・運営を積極的に行った。</li> <li>・ 各行事において生徒各自の役割を自覚し参加することで人間関係作りや責任感を育むことができ、充実感・達成感を得ることができた。</li> <li>・ 各行事後アンケートを実施し、活動への関心が高まるよう努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度は図書館等施設利用の実態を把握すべくアンケートを実施した。</li> <li>・ 定期購入の図書館新聞や本の探し方、コンクール案内等を図書館入口に掲示した。</li> <li>・ 図書委員会では図書整理、ポップ作成、図書館ニュースの発行、教養講座、キャンパスフェスティバルで本探しクイズとしおり作り、2月にはワークショップを企画した。</li> <li>・ 生徒や教員に購入希望図書アンケートを実施し、定期的な企画展示等、様々な本に興味を持ってもらえるよう努めた。</li> </ul>
評 価	A 目標を達成した	A 目標を達成した
学校評議員の意見	生徒のアンケート結果を学校行事に反映している点を評価する。行事の欠席者や少数意見にも耳を傾けていただきたい。	図書館等の利用について、移動図書や授業での活用や、「校内居場所カフェ」などを参考に、今後も生徒の居場所の一つとなり得るような工夫や催しを期待したい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度アンケート結果をもとに、企画や運営の工夫や見直しの検討を行い、改善して学校行事への積極的な参加を促す。</li> <li>・ 集団活動への苦手意識や経験不足を感じる生徒が多いため、年次や教職員とより一層の連携を図り、多様な生徒に配慮しながら企画・運営を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の現状把握に努め、その意見を元に、生徒が関心を持てるような図書の選定や企画展示、イベント等を図書委員会と協力し実施したい。</li> <li>・ 「知らない・行ったことがない図書館」脱却のため、図書館ニュースやアンケート等の継続的発信が必要である。</li> <li>・ 生徒の居場所としての役割を担うための具体的方策や、読書促進のための方策(年度末に貸出数上位者表彰等)も検討する必要がある。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

重点項目	その他:総合福祉科学習指導			
重点課題	専門科目への意欲的な学習			
現 状	「地域で活躍する人材の育成」を指導目標としている。日々の授業の中で衣食住や介護の知識・技術を定着させたり、家庭・地域生活や福祉のあり方を考えたりすることに努力を要する生徒が見られる。			
達成目標	① 授業及び地域との交流活動を通じて福祉分野への興味関心が深まった生徒の割合 70%以上		② 衣食住の学習・実習を通して、自分の生活をよりよくするための知識・技術が身についた生徒の割合 70%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域での交流活動に参加することで、生徒の福祉分野に対する興味関心を深める。</li> <li>日々の授業で学習した専門科目の知識・技術を地域での交流活動に活かすことで、今後の専門科目の学習に意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>活動報告会を実施し、今後の専門科目への意欲向上や技術向上に役立てる。</li> <li>校外での活動を意識した挨拶・礼法指導を授業内で行う。</li> <li>個別の配慮を要する生徒に対する指導について工夫する。</li> </ul>			
達成度	① 100%		② 80%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での実習や高校生介護等特別体験事業を活用した実践的な学習、特別講師招聘事業を活用した特別講義の実施、ボランティア等を積極的に行い、家庭・福祉分野の興味関心を深めることができた。</li> <li>介護実習やボランティア活動、交流活動等の事前学習の中で、目標や身につけてほしい力等を具体的に示すことで生徒一人ひとりが活動に対する目的意識を明確にして取り組むことができた。</li> <li>家庭科技術検定、介護職員初任者研修課程、社会福祉・介護福祉検定を実施し、家庭・福祉のより専門的な知識・技能を身につけることができた。</li> </ul>			
評 価	A	目標を達成した	A	目標を達成した
学校評議員の意見	外部講師の特別講義や地域との交流活動等を通じて知識や技術が身につけやすい環境である。実践的な学習で学んだ知識や経験が次に活かされるように努めて欲しい。			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な学習がその時間で完結するのではなく、学んだ知識や経験を次の活動や学習に活かされるよう、計画段階から系統的な内容を練る。</li> <li>自己評価・他己評価を通して、生徒自身が自分の成長を実感できるような学習機会を設定する。</li> <li>検定に関して、受検者全員合格するよう個人のレベルに応じた指導を行っていく。</li> </ul>			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:達成できなかった)